





インフォメーション・コーナー

会 告

○「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水（畑）』」の発行について（再）	108
○学生会員入会3点セットのご案内	109
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	109
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	109
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	110
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016年7月から2018年6月までの編集事務局について	110
○平成28年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について 応募締切 11月25日	111
○平成28年度応用水理研究部会講演会の開催について（第2報）  参加申込締切 11月11日	112
○平成28年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第2報）  12月10日開催	112
○農業農村整備政策研究部会第4回研究集会の開催と発表者の募集について  応募締切 平成29年1月初旬予定	113
○第54回材料施工研究部会シンポジウムの開催について  参加申込締切 平成29年1月13日	113
○第4回アジアバイオマス科学会議の開催について 12月13日開催	114
農業農村工学会論文集内容紹介	115
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	116
受入れ図書	116
文献目録	117
学会記事	119

第84巻第12号予定

展望：齊藤政満

小特集：新技術の導入や創意工夫により各種課題を解決に導く技術力

- ▷報文：長距離シールドを異なる工法で2方向同時施工：今村 肇
- ▷報文：既設頭首工固定堰改修に伴う石張工の工夫：川本喜憲
- ▷報文：農業用ため池堤体の適正な評価：岡崎皓介
- ▷報文：暗渠という既存施設を革新的なマネジメントで蘇生する：粟生田忠雄
- ▷報文：ALW形ダクタイル鋳鉄管を用いた埋設実験：本田弘司ほか
- ▷報文：国営九頭竜川下流地区における新たな水利システムの構築：平岩昌彦ほか
- ▷報文：国営九頭竜川下流地区における設計・施工の特徴：財津卓弥ほか
- ▷報文：九頭竜川下流地区の生産基盤をフル活用した農業振興の取組み：西岡 伸ほか

技術レポート

- 北海道支部：補助暗渠施工圃場における排水機能の検討：西野敏朗ほか
- 東北支部：松沢地区における洪水吐（ラビリンス堰）の施行事例：水戸部貴志ほか
- 関東支部：急傾斜地における軽量盛土工法の施行事例：潤 一彦
- 京都支部：ボックスカルバートの施工におけるマットレス工法：森 高裕
- 中国四国支部：超軟弱地盤上の新設樋門における二重締切工等の施行事例：毛利正彦
- 九州沖縄支部：農地中間管理事業を有効活用した農地整備事業の事例紹介：柳田達人ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年11月9日	関東支部	第67回支部大会	—	長野市	84巻6,7号
平成28年11月14日	農業農村整備政策研究部会	第5回研究会	徹底討論「土地改良区は今！」	東京都	84巻10号
平成28年11月16,17日	京都支部	第73回研究発表会	—	大阪市	84巻4,6号
平成28年11月17,18日	農地保全研究部会	第37回研究集会・現地研修会	農地保全と自然災害	高知市ほか	84巻8,9号
平成28年11月29日	北海道支部	第39回研修会	北海道における次世代の農業農村整備にむけて	札幌市	84巻10号
平成28年11月30日	北海道支部	第65回研究発表会	—	札幌市	84巻10号
平成28年12月3日	応用水理研究部会	平成28年度講演会	農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	岐阜市	84巻10,11号
平成28年12月10日	農業水利研究部会	平成28年度研究集会	産地収益力向上にかかわる農業水利システムの高度化と省力化技術の適用	東京都	84巻10,11号
平成29年1月下旬	農業農村整備政策研究部会	第4回研究集会	—	東京都	84巻11号
平成29年1月25日	北海道支部	支部講習会	—	札幌市	—
平成29年1月27日	材料施工研究部会	第54回シンポジウム	大規模地震に対する農業水利施設の耐震対策の現状と課題	名古屋市	84巻11号

「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水(畑)』」の発行について(再)

この度、「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水(畑)』」が平成28年10月末に発行されました。

<改定の趣旨より抜粋>

…、平成9年6月3日に土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水(畑)」(以下「本基準」という。)として全面改定を行った。

その後、平成13年の土地改良法の一部改正において、土地改良事業の施行に当たって環境との調和への配慮が位置付けられるとともに、平成24年に閣議決定された土地改良長期計画では、農業水利施設の戦略的な保全管理が位置付けられた。

これらの施策を、畑地かんがいに係る土地改良事業の計画に反映するため、本基準の内容を改めて制定した。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農業用水(畑)」

監修：農林水産省農村振興局

発行：(公社)農業農村工学会

価格：2,900円(消費税8%込、送料学会負担)

規格：A4判 約400ページ

改定年月：平成27年5月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合(賛助会員を除く)

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封ください。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送りください。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送りください。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

学生会員入会 3点セットのご案内

農業農村工学会は、将来を担う若い方たちが早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、「学生会員入会3点セット」（初年度会費、農業農村工学ハンドブック、標準用語事典のセット）を設けていますので是非、ご利用ください。

通常の申込価格

<学部学生>

(ハンドブック+標準用語事典+年会費)

20,571円(定価)+4,628円(定価)+2,500円=27,699円

<大学院生>

(ハンドブック+標準用語事典+年会費)

20,571円(定価)+4,628円(定価)+5,500円=30,699円

3点セット価格

<学部学生>

ハンドブック+標準用語事典+年会費=17,000円

<大学院生>

ハンドブック+標準用語事典+年会費=19,500円

* 10月1日以降の入会については、初年度のみ会費が半額になります。

詳しくは学会ホームページをご確認ください。

問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌11月号掲載の問題は12月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合にはCPD単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 84, 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
84 巻 12 号	新技術の導入や創意工夫により各種課題を解決に導く技術力 (仮)	公募終了
85 巻 1 号	新たな土地改良長期計画を考える (仮)	公募終了
2 号	海外農業農村開発協力のこれまでとこれから (仮)	公募なし
3 号	ダム保全管理工学の最前線 (仮)	11 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

85 巻 3 号テーマ「ダム保全管理工学の最前線」(仮)

平成 28 年 8 月に閣議決定された新たな土地改良長期計画では、農業政策および地域政策両者の土台としての「強くてしなやかな農業・農村」という政策課題に対応する政策目標のひとつとして、「老朽化や災害リスクに対応するため、農業水利施設の戦略的な保全管理と機能強化」が掲げられています。

特に、わが国に整備された地下ダムを含む農業用ダムは、食料自給力を構成する不可欠な要素として、安定的に農業用水を確保、供給するという重要な役割を担っています。このため、整備以来長期間を経ているダムを中心に、老朽化への対応を含めて、今後発生が想定される大規模地震に備えるための耐震性の総点検を含めたダムの安全性評価、耐震技術の高度化、新規水源の確保、地球温暖化の影響による洪水および渇水リスクに

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

対応するための高上げや再開発などの機能強化、貯水機能を確実に維持するための健全度評価を踏まえた保全管理などが存在しています。さらにそのためのコスト縮減などを目指した設計・施工技術の開発なども重要となっています。このような分野はダム保全管理工学とでも言うべきもので、技術開発および人材育成がますます重要となっています。

そのため、本小特集では、①ダムの維持管理、長寿命化、モニタリング、②ダムの緊急事態の設定とリスク評価手法の確立、③ダムの挙動予測に関する技術開発、④洪水予測に関する技術開発、⑤利水運用技術面での工夫、に取り組まれている民間を含む技術者・研究者の方々から「ダム保全管理工学の最前線」に関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと

2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界 14 カ国から Editor (20 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方、2016 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 20 名
- ・ **Advisory Editing Board** 29 名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Yu-Pin LIN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
Mr. Nobuyoshi FUJIWARA
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan
Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2016 年 7 月から 2018 年 6 月まで) :

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

平成 28 年度材料施工研究部会研究奨励賞候補の推薦について

材料施工研究部会では、平成 15 年 2 月発刊の図書「建設材料－地域環境の創造－」の出版記念行事の一環として「研究奨励基金」を設け、材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できる優れた研究成果をあげた学会員を表彰いたします。平成 28 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞の候補を下記の要領で公募いたしますので、会員各位には自薦または他薦による応募をお願いいたします。

なお、過去の受賞者は本部会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/zaiseko/>) をご参照ください。

平成 28 年度農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞

募集要領

1. 受賞対象者

本研究奨励賞は、農業農村工学の材料施工関連分野において優れた研究成果をあげた者に与えられる。

1.1 対象研究業績

当該前年度または前々年度に発行された農業農村工学会論文集および学会誌、農業農村工学会大会講演会、材料施工部会シンポジウムの材料施工関連分野で発表された研究であること。

- (1) 研究成果が材料施工関連分野の新たな発展に寄与することが期待できること。
- (2) 材料施工関連分野とは、材料、施工、応用力学および土質力学を指す。

1.2 受賞対象者の資格

- (1) 農業農村工学会の正会員または学生会員であること。
- (2) 対象となる研究業績の主体者でかつ発表者または第一著者であること。
- (3) 既受賞者は 3 年間選考対象から除く。

2. 応募資料

- (1) 推薦書

本学会ホームページの奨励賞推薦書 (http://www.jsidre.or.jp/zaiseko_suisen/) から推薦書をダウンロードし、必要事項を記入すること。推薦書は1ページ以内にまとめること。

(2) 対象となる研究業績の別刷り

※ (1), (2) いずれも PDF を下記部会長宛てに送信すること。

3. 応募締切 平成28年11月25日(金)

4. 応募先・問合せ先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

材料施工研究部会 部会長 石黒 覚

TEL: 059-231-9586, E-mail: ishiguro@bio.mie-u.ac.jp

5. 審査

農業農村工学会材料施工研究部会研究奨励賞選考委員会が審査し、幹事会により決定する。

審査結果は、別途受賞者に通知する。

6. 表彰

受賞者には、平成29年1月に開催予定の本研究部会シンポジウムにおいて表彰するとともに副賞を授与する。また、表彰の結果は部会報などで公表する。

平成28年度応用水理研究部会講演会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



応用水理研究部会では、平成28年度応用水理研究部会講演会を下記のとおり開催いたします。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日時 平成28年12月3日(土) 9:00~17:00

2. 場所 岐阜市文化センター会議室
〒500-8842 岐阜市金町 5-7-2
<http://gifu-culture.info/>

名鉄岐阜駅およびJR岐阜駅から徒歩7分

3. 課題 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究

4. 発表時間 1課題当たり20~30分

5. 発表原稿

学会講演会と同じA4の様式とします。PDFファイルあるいはMSワードファイルでの提出をお願いいたします。枚数制限はありません。

6. 講演要旨集

講演会開催までに当研究部会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/ouyousuiri/>) において公開する予定です。

当日の講演要旨集(印刷物)の配付はございませんので、参加される方は事前のダウンロード、あるいは会場にて事務局が準備するUSBメモリからのコピーをお願いいたします。

7. 参加申込み

平成28年11月11日(金)までに下記9.の問合せ先まで、以下について電子メールでお知らせください。件名は「応用水理研究部会講演会への参加申込」としてください。

氏名/所属/所属の住所(郵便番号を含む)/発表の有無

8. 原稿提出

平成28年11月25日(金)を必着として、下記9.の問合せ先まで、ファイルを添付したE-mailを送信、もしくは、ファイルを保存したCDやDVD等のメディアを郵送してください。E-mailの場合、件名は「応用水理研究部会講演要旨」としてください。

9. 問合せ先

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学応用生物科学部 平松 研

TEL&FAX: 058-293-2878 E-mail: hira@gifu-u.ac.jp

平成28年度農業水利研究部会研究集会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



わが国の農村地域では、今後、大規模かつ少数の担い手が地域の水利利用の太宗を占めた場合、これを支える持続可能な水管理体制の再編等を行うなど、新たな農業水利システムの構築が必要とされている。また、このたび、新たな土地改良長期計画が閣議決定され、その中で策定された政策課題「産地収益力の向上」に関して、農業水利システムの高度化と関連づけて、大区画化や水管理の省力技術化、低コスト化などを盛り込んだ取組みなどについて、昨年度に引き続いて検討してみましたので、ここにご案内いたします。なお、参加はどなたでも自由です。

1. 期日 平成28年12月10日(土) 13時~17時

2. 場所 航空会館 801会議室
東京都港区新橋1-18-1 TEL 03-3501-1272

交通機関: JR新橋駅日比谷口・地下鉄東京メトロ銀座線・都営浅草線⑦出口より徒歩6分、地下鉄都営三田線内幸町駅A2出口より徒歩1分

3. テーマ 「産地収益力向上にかかわる農業水利システムの高度化と省力化技術の適用」

4. 講演者および題目

「農業用水をめぐる最近の動向」

農林水産省農村振興局整備部水資源課課長補佐

東 崇史

農林水産省農村振興局整備部水資源課開発計画係長

永田晋一郎

「節水および省力化を目指した水管理情報システムの構築と適用」 滋賀県愛西土地改良区 田附孫之・福原哲史

「省力的水管理のための SCADA（監視制御システム）による圃場-広域連携型水管理システムの開発」

農研機構農村工学研究部門水利工学研究領域上級研究員
中矢哲郎

5. 参加費 500 円
6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
地域資源利用工学研究室内（担当：中村好男）
TEL：03-5477-2337 FAX：03-5477-2620
E-mail：nyoshi@nodai.ac.jp

農業農村整備政策研究部会第 4 回研究集会の開催と発表者の募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は、農業農村整備政策を進化・発展させるため、行政関係者と研究者などが日々の成果を発表する研究集会を年 1 回開催することとしております。ついては、下記の要領で、第 4 回の研究集会を開催することといたしました。

発表する内容は部会の目的に即していれば何でも構いません。たとえば、行政関係者で言えば、予算制度の創設など政策立案過程の業務体験を考察したもの、今後の政策のあり方や政策の組合せに対する意見、政策を策定する過程の手法や将来の政策につながる調査結果などが考えられます。研究者などの方々は、現行の政策の評価、さまざまな政策の比較分析、新たな政策の提案に向けた研究成果、政策に役立つ手法・調査結果などが考えられます。そのほかにも、行政と研究の連携事例などさまざまなテーマが考えられます。

目まぐるしく移り変わるわが国経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は、わが国農業の基盤強化と豊かな農村の実現にとって急務です。研究者や行政関係者などの皆様は是非この研究集会に奮って参加していただき、農業農村整備政策の進化・発展に寄与していただければ幸いです。なお、後日、第 4 回研究集会のプログラムをお伝えしますので、発表されない方も是非研究集会にご参加下さい。

1. 開催日時 平成 29 年 1 月下旬 15：00～18：00

* 日程が決まり次第、部会ホームページでお知らせします。

2. 場 所 未定（東京都内）
3. 発表募集人数 6 名程度
4. 発表時間 1 人 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）
ただし応募者の人数により変更あり。
5. 発表方法 パワーポイントを利用する。
6. 電子ジャーナルへの掲載

発表した内容は「農業農村整備政策研究（電子ジャーナル）」に掲載しますので、「農業農村整備政策研究（電子ジャーナル）」投稿要項（部会ホームページ参照）に従い原稿を作成し、発表後 14 日以内に部会編集委員会事務局まで送付して下さい。

7. 募集締切 平成 29 年 1 月初旬

* 日程が決まり次第、部会ホームページでお知らせします。

8. 研究集会事務局（発表および参加申込み、問合せ）

東京大学大学院農学生命科学研究科
水利環境工学研究室 飯田俊彰
TEL&FAX：03-5841-5347
E-mail：atiida@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp
農業農村整備政策研究部会ホームページ：
<http://www.jsidre.or.jp/seibi/seisaku/>

第 54 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ 大規模地震に対する農業水利施設の耐震対策の現状と課題
3. 期 日 平成 29 年 1 月 27 日（金）
4. 会 場 中電ホール
〒461-0006 愛知県名古屋市中区東新町 1
<http://www.chudenfudosan.co.jp/bunka/map/chuden-hall/>
5. プログラム
9：50～10：05 開会式
開会挨拶
材料施工研究部会長（三重大学生物資源学研究所）
石黒 覚

- 愛知県農林水産部農林基盤局長 山本信介
10：10～10：30 材料施工研究部会 研究奨励賞授与式
平成 28 年度部会賞選考経過報告
愛媛大学農学部 小林範之
10：40～11：40 <基調講演>
大規模地震による農業水利施設の被害と耐震化の課題
—海溝型と内陸型地震の被災形態の相違を踏まえて—
農研機構農村工学研究部門企画管理部災害対策調整室長
鈴木尚登
11：40～12：40（昼食）
12：40～15：20 <一般講演>
12：40～13：10
(1) 矢作川総合第二期事業における耐震化対策の概要

東海農政局矢作川総合第二期農地防災事業所調査設計課
木原伸英

13:10~13:40

(2) ため池の耐震調査及び耐震対策の状況

愛知県農林水産部農林基盤局農地計画課 田村紀明

13:40~14:10

(3) 伊自良ため池の耐震対策について

岐阜県岐阜農林事務所 松原光男

(休憩)

14:20~14:50

(4) 豊川用水施設における水路トンネル耐震照査と対策について

(独) 水資源機構豊川用水総合事業部調査設計課

小林 淳

14:50~15:20

(5) 三重県排水機場における耐震照査および対策の状況

三重県農林水産部農業基盤整備課 堀江正征

(休憩)

15:30~16:00 パネルディスカッション

—南海トラフ地震による被害軽減に向けて—

進行:大阪府立大学大学院生命科学研究科 木全 卓

16:00~16:05 閉会式

6. 参加費 4,000円(参加費:1,500円,「材料と施工」
第55号:2,500円)

平成29年1月13日(金)までに「8. 振込

先」までお支払いください。

※ご依頼人名(振込者名)は参加者のお名前
でお願いいたします。

7. 申込み

以下の項目をご記入の上, FAX もしくは E-mail にてお
申し込みください。その際, 標題欄には「材料施工研究部
会シンポジウムへの参加申込」と明記してください。

①参加者氏名, ②所属機関名, ③所在地, ④ TEL,
FAX, E-mail アドレス, ⑤参加費の振込日または請求書
払い(代金後納方式)の希望, ⑥弁当(代金¥1,000) 予約
注文希望の有・無, ⑦CPD 番号(登録希望の方)

8. 振込先 振込口座:百五銀行 栗真出張所
普通 348995

口座名義:農業農村工学会材料施工部会

※振込手数料はご負担いただきますようよ
ろしくお願いいたします。

9. 申込締切 平成29年1月13日(金)

10. 宿泊 各自で手配していただきますようお願いい
たします。

11. 申込み・問合せ先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学生物資源学研究科共生環境学科

材料施工研究部会事務局

申込受付担当:岡島賢治

TEL:059-231-9586 FAX:059-231-9591

E-mail:okajima@bio.mie-u.ac.jp

第4回アジアバイオマス科学会議の開催について

学術的に幅広い角度から国際的なバイオマス資源の有効利用
を議論することを目的とした国際会議として, これまで3回日
本で開催されたアジアバイオマス科学会議の第4回をマレーシ
アのペナンで開催します。使用言語は英語です。

1. 主催 日本エネルギー学会バイオマス部会

共催 マレーシア科学大学, アジアバイオマス協議会,
広島大学

協賛 農業農村工学会ほか22学協会(予定)

2. 日時 平成28年12月13日(火)

3. 会場 マレーシア科学大学 ムラド・オーディトリウム
(マレーシア, ペナン州)

4. 懇親会 平成28年12月13日(火)夕方(参加者は無料)

5. 文化ツアー 平成28年12月14日(水)(参加者は無料)

6. 言語 英語

7. 参加申込み等 参加申込み等の詳細はホームページ
(<http://jie.or.jp/biomass/events/acbs/>)
をご覧ください。